

R6年度 活動報告会

R7年1月29日

古賀 基生

はじめに

「サイクリストにやさしい宿」を実現するために、誘客先を検討していました。

＜きてみーなにとっての理想の顧客＞

- きてみーなの設備を喜ぶ人たち
- きてみーなに、早期（前年度中）に予約を入れる人たち
- リピートが期待できる人たち



- ◆ブルベは代表する組織があり、走行会の開催計画は前年度に決定する。
- ◆ある程度自由の利く宿舎を探している「ブルベ」はリピートが期待できる。

「ブルベ」は、4年に一度フランスで1200Kmの本大会が開催される長距離走。

2023年の世界大会は参加者が約6500名。日本からは358名が参加しました。

日本の競技人口は、1～1.5万人といわれています。

2027年のフランス大会に向け、4年間をかけた国内予選の一部が伊達市および「きてみ～な」を利用しはじめました。

ブルベとは

ブルベとはノーサポート・自己責任の長距離サイクリングイベントで、タイムや順位には拘らず制限時間内での完走を認定するものです。

ブルベ（仏語 Brevet）は認定を意味します。参加者は事前に公表されているルートに従って走行し、指定されたチェックポイントを時間内に通過しゴールを目指します。制限時間はおおよそ平均時速15km程度で計算され、努力は要するものの無理のない速度で走れるように設定されています。ブルベの規則、交通法規は厳守です。規定の距離を制限時間内に走ると、コース完走の認定を受けることができます。

Audax Japanは日本においてACP（Audax Club Parisien）およびLRM（Les Randonneurs Mondiaux）の認定ブルベを統括しています。日本で開催されるACP認定のブルベにはBRM、Fleche Velocio、SR600があり、1200kmを超えるLRM認定ブルベ(RM)も開催されています。

	参加条件（認定条件）	制限時間	備考
200Km	特になし	14時間	公式コース
300Km	200Kmを完走し認定されている。	20時間	公式コース
400Km	300Kmを完走し認定されている。	27時間	公式コース
600Km	400Kmを完走し認定されている。	40時間	公式コース
1200Km	600Kmを完走し認定されている。	80時間	4年に一度の「パリブレ ストパリ」など

< 夜間の走行は危険か？ >

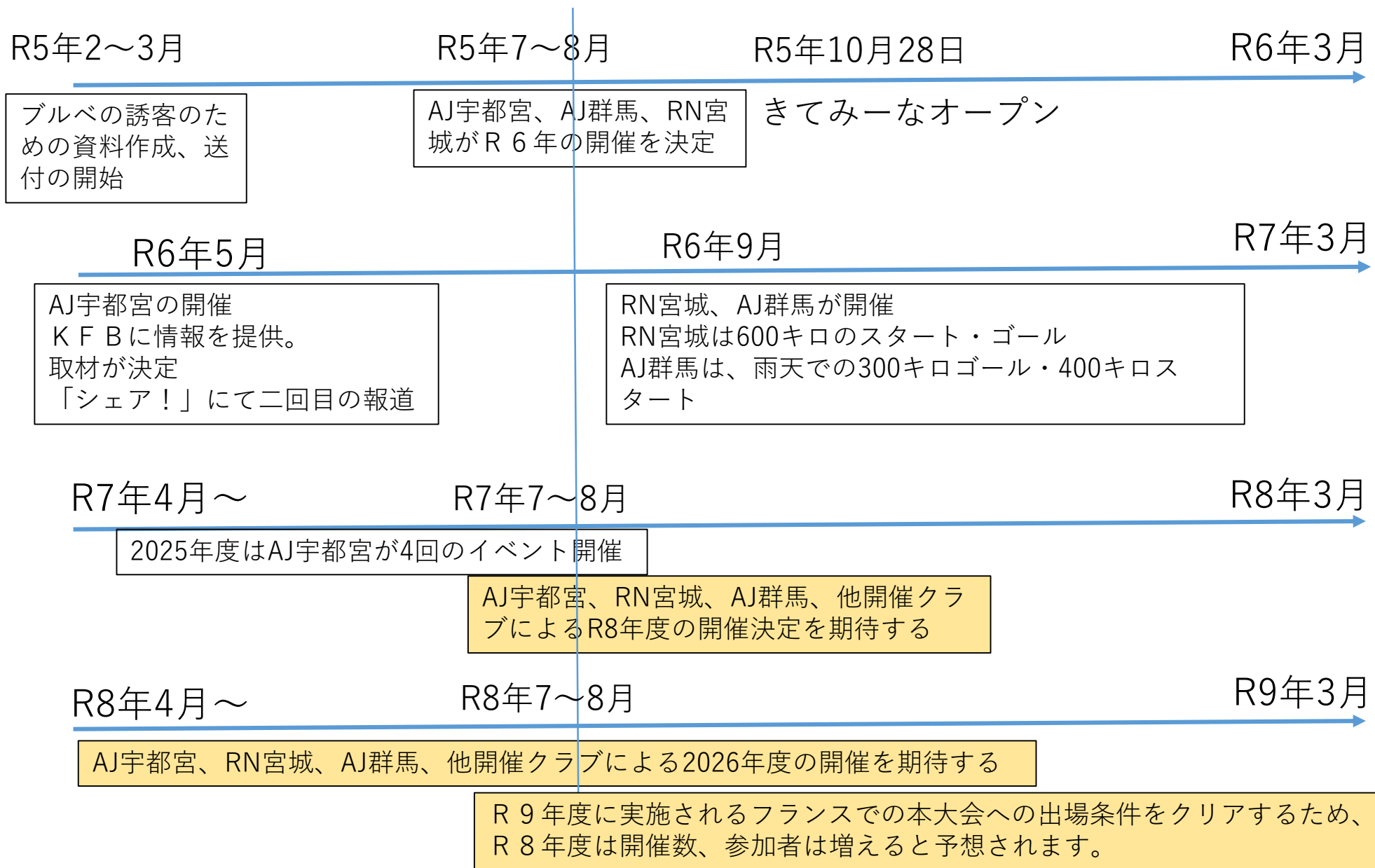
ブルベでは400キロを超える場合では、

- ・ 前照灯 2 個（明るさも規定があります）
- ・ 尾灯 2 個（常時点灯します）
- ・ 自転車に大きい反射材を取り付けます
- ・ 反射ベスト（夏でも着用）

を義務付けており、安全の確保に注力している。



「ブルベを呼ぶ。」 やってきたことから期待することへ



詳細をQA方式で 1

Q1 なぜブルベクラブへの資料提供をR5年2月から開始しているのか

- A1 ブルベの組織との関係です。「公表されているコースを走ること」が必要なブルベをきてみ～なに呼ぶためには、きてみ～なが「公表されているコース」上に存在する必要があります。
- ブルベではR6年のコース認定は、R5年7月に決定します。（本体への申請が必要）
開催クラブではR5年5月にはコースの検討が佳境にはいります。
R6年に誘客するには、R5年5月よりも前に施設の情報を提供する必要がありました。

Q2 いくつかのクラブへ、どのくらいの頻度で情報を発信したか。

- A2 関東、東北の開催クラブ、13か所に送信をしました。そのうち返信があった5クラブについて、施設の整備が進むたびに情報を提供していました。月1回程度の情報提供となり、最終的に3つのクラブがイベント開催に進みました。

Q3 イベント開催後の反応はどうであったか。

- A3 R6年5月に開催したAJ宇都宮はR7年のコース申請にて1回→4回へ増やしました。R6年9月開催だったRN宮城、AJ群馬は、R7年の申請には間に合いませんでした。しかしR8年には戻ってくるとのこと。
- 特にAJ群馬は、「自分たちが宣伝するようになるが、他の開催クラブに情報を提供してよいか」とのこと。ブルベクラブによる「情報の展開」をお願いしました。

詳細をQA方式で 2

Q4 R6年のブルベは何を受け入れたのか。

- A4 (1) 600キロのコースの390キロ地点としての**オーバーナイトコントロール**
仮眠施設としての活用（有人チェック）
(2) 600キロのコースの**スタート、ゴール**。
スタート地点としての前日泊、ゴール後の後日泊
(3) **300キロのゴール、翌日400キロのスタート** ※雨天での受け入れ

Q5 今後もきてみーなにブルベがきますか

- A5 R6年に開催したブルベの**3クラブの役員に知り合いは一人もいません。**
提供した情報をクラブが判断し、下見を行って開催となっています。

支所で受け入れの手伝いをしたのは「AJ宇都宮が開催した600キロ」のみです。支所でも初めてのブルベがどんなものかを知ることが目的であり、またKFBの取材があったため対応しました。

ブルベの開催クラブとは、電話、オンラインでの打ち合わせを実施し、その内容をきてみーなスタッフと打ち合わせし実施した結果、

現在はきてみーなスタッフでの対応が可能な環境となっています。

詳細をQA方式で 3

Q6 R6年のブルベがきてみ～なを「良い」と評価したポイント

A6 (1) AJ宇都宮

600キロの**オーバーナイトコントロール**が屋内で可能。

参加者を自分たちが把握できる範囲で宿泊させられたこと。

(2) RN宮城

スタート地点に宿泊できること。**ゴール後も宿泊**することで、翌日帰宅が楽になると期待している。

できれば風呂がよいが、シャワーがあってよかった。

長距離の場合、**お尻のトラブルが発生**しやすいが、**ウォシュレット**ときれいな**トイレ、ベッドで快適**であった。

(3) AJ群馬

雨天での開催であったが、到着時にすぐに**シューズをサンダル、スリッパに履き替える準備があり快適**に過ごせた。

※濡れた自転車のシューズは滑りやすく、「**脱いで歩きたい**」**自転車乗りの感覚と、施設管理として「濡れた靴で歩いてほしくない」**が一致した結果となります。

任用時に市長から言われた「**自転車の聖地**」

にはおおよびませんが、関東、東北のブルベのイベントにかかわることで、

東北ブルベの拠点

すくなくとも「ブルベ」関係者には、**使いやすい施設**として認識されました。

伊達市内の道路、きてみ～なを利用し、世界大会にむけた予選ですが、残念ながら通過する時間が早朝や深夜なので、**なかなか見かけられない**かもしれません。

ご静聴ありがとうございました。